

日本映画放送株式会社 第 50 番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 28 年 3 月 15 日 (火) 15 時～16 時
2. 開催場所 : 東京都千代田区有楽町 1-1-3 東京宝塚ビル 15 階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席 : 委員総数 8 名 / 出席委員数 8 名
出席委員(順不同、敬称略) : 菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正
放送事業者側出席者 : 取締役社長 杉田 成道
常務取締役 佐藤 信彦
編成制作部長 澤 尚志
編成制作部 塚田 洋子
番審担当 堤 靖芳
清水 明 (記)

4. 議題 (1) 審議事項
日本映画専門チャンネル、「生誕 100 年 市川崑劇場 『日本と日本人[デジタル復元版]』」について
(2) 報告事項
時代劇専門チャンネル、「大河ドラマ[総集編]劇場」について

5. 議題 (1) 概要

1970 年の大阪万博・日本館で上映された市川崑監督による、幻の 8 面マルチ映像作品『日本と日本人』(21 分)を日本映画専門チャンネルで TV 初放送した。2013 年に発見された 8 本のフィルムを、日本映画専門チャンネルと東宝が 1 画面にデジタル合成して復元したものである。脚本とナレーションは谷川俊太郎、音楽は山本直純が担当していたが、素材が失われていた。本作品の放送にあたり、約 15 分の解説を本編放送前につけ、本編後にもエンディングも付して 1 番組として放送した。解説番組のナレーションは俳優の石坂浩二が担当。

【審議 POINT】

- 映画のみならず、こうしたイベント映像等の修復に対する取り組みや放送についてどう評価するか。
- 解説を含む放送内容についてご意見をお聞かせいただきたい。
- 音声素材の欠落した素材の放送と、その対応について、適切と考えられるか。

6. 議題(1)審議内容

- ・50年近く前の懐かしい映像を自宅で見られて嬉しいし、「市川崑劇場」にこの作品が入っていたことに驚き、関係者の努力に感謝する。解説番組も過不足なくよかった。国産機材で撮った市川崑のこの映像は各パビリオンの上映映像の中でも出色の出来だった。音声は欠けていたが、いい映像は音声がなくても十分に感動させてくれるものだと再認識した。
- ・音声素材がなくても放送したことの意義はあったと思う。ただ、音声素材がなかったことについて、途中から番組を見た視聴者への対策の難しさは感じた。
- ・映像史を学ぶ企画の一環として、カメラ8台で撮影する当時の最先端技術を興味深く見た。デジタル復元版を製作する裏側や苦勞も見せてくれたら、より楽しめたと思う。
- ・作品の中身は環境ビデオのようで物足りなかった。谷川俊太郎の脚本が現存しているのならば、テロップにして見せてほしかった。
- ・市川崑監督作品にしてはおとなしい作品だと思った。子供と工場の煤煙を対比させるなど、市川監督の世界というより、谷川俊太郎の存在が大きかったのではないかと感じた。
- ・このチャンネルとして本来扱うフィールドの作品なのか疑問だが、「市川崑劇場」の中なら筋が通ると思う。特番でメイキングやイベント映像の特殊性について解説があったので、音声がなくてもそれほど気にならなかった。また、石坂浩二のナレーションがよかった。視聴者からの問い合わせがなかったか心配だ。
- ・市川崑ファンは貴重な映像を見られて喜ぶだろう。自分の中で湧いてくる言葉を探しながら見たら、私はなかなか楽しめた。
- ・市川崑監督は技術革新に敏感な人で、8面マルチ映像に取り組んだのも市川監督らしい。富士山とその周辺に生きる人の姿を捉えつつ、普遍的な「日本と日本人」が見通せるようになっていて素晴らしいと思う。映像詩として見たが、せめて音楽がついていたら…、と惜しまれる。本作を見て、この2年後に市川監督が演出したテレビドラマ「木枯し紋次郎」の斬新なタイトルバックが思い出された。あの分割処理した映像の原点がここにある。

<事業者回答>

- ・当初企画だった『富士』の脚本を発見したが、『日本と日本人』の完成台本を見つけることができなかった。シナリオとナレーションを担当した谷川俊太郎に内容を問い合わせたが、「覚えていない」と回答があった。サイレントの放送になり大変遺憾であるが、可能な限り丁寧な対処をした結果、視聴者からのクレームはなかった。
- ・私たち放送人の常識からすると、無音の番組を20分以上放送することは通常考えられない。音声の欠落した状態では作品本来の意図や魅力が伝わらないとも思う。映像史的意義があつての放送だが、大きな批判なくご覧いただき安堵した。今後こうした企画が続く訳ではない。

7. 議題(2)報告事項

【時代劇専門チャンネル】「大河ドラマ[総集編]劇場」の放送について

NHK 大河ドラマ「真田丸」の放送開始にあわせ、大河ドラマ約 50 年の歴史を[総集編]を通して振り返る新レギュラー企画【大河ドラマ[総集編]劇場】を、1月に開始した。初期大河ドラマから近年の作品まで、放送可能な 30 シリーズ・全 108 回を制作順に 2 年以上かけて放送する予定。本編テープが現存しない初期作品もあり、視聴者から感謝のコメントが届いている。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成 5 月 24 日(火)開催。